

57. 登校拒否児の母親の養育態度の問題は

【問い】 子供の人格形成には親の養育態度が重要だといわれていますが、登校拒否の傾向のある子供の親、特に母親の養育態度について、来談した事例からで結構ですから教えてください。

【答え】 登校拒否児は、一般に①過保護で甘やかされて育ってきている②年齢相応に精神的自立ができていない③自己中心的で、同時に傷つきやすく、過敏であり、小さなことにもこだわる④消極的、神経質的で、気分の変化が大きく、自分のからに閉じこもりやすい⑤父親が精神的に不在であるなどといわれています。

一般に神経症的症状を呈する登校拒否児が多いので、その母親の養育態度の特徴について述べてみます。

①子どもに対して、過酷な要求をしたり、無視したりして積極的に拒否するタイプ②親の果たし得なかった野心や要求を、子どもに強要し、子どもの個性能力を無視し、親の要求や水準に従わせようと期待するタイプ③子どもをよりよくするために世話をやきすぎ、できるだけの助力や指図を与えようと干渉してしまうタイプ④子どもの日常生活、学業、健康、将来の進路などに、心配や不安をいだき、過度の援助や保護を与えようとする不安タイプ⑤同じ行動に対して、ある時はしかり、禁止し、ある時は見逃したりして、一貫性のない矛盾したタイプ⑥両親の態度が一致せず、子どもが親から異なった取り扱いを受けやすい不一致のタイプ等が特徴です。

母親は、かつて子どものころ、感受性が豊かだったのですが、自分が子育ての立場にたった時、昔の子どものころをすっかり忘れてしまっていることが多いようです。

もっと素直な気持ちになって、子どもの気持ちをくみ取ることができるようになれば、子どもの心の傷もいえることになるでしょう。